



芦屋市議会
議長 松木義昭 殿

打出公園&日本庭園のリニューアル整備計画進行に伴い、
市民の声を広く収集するアンケートの実施をお願いする陳情書

[陳情理由]

(経緯)

2022年1月25日付け、朝日新聞阪神版朝刊で初めて知らされ、我が目を疑いました。
私が昭和37年当時暮らしていた打出小槌町の公園の猿の檻が公園リニューアル計画で撤去の方向で進んでいると報道されたからです。

まず、私は個人的あるいは感情的な理由で陳情を行うものではないこと。打出小槌町の自治会の皆様がこの案件に関して築き上げられてきた事を尊重するポジションであること。打出公園&日本庭園(打出教育文化センター)リニューアルワークショップで2021年10月から積み上げられてきたプロセスを決して否定するものではない事を最初に申し上げます。

報道されたことが事実であるのであれば、この事実は国際文化住宅都市である芦屋市にとって大きなマイナスになるのではないかと考えます。

ご存じの通り村上春樹氏が早稲田に進学するまで暮らした芦屋の原風景を小説にモデルとして登場させたことは大変、本市にとっては貴重です。

氏のデビュー作である「風の歌を聴け」にはこちらの公園、そして「猿の檻」が重要なエッセンスとして登場しています。だから、読者の中には遠方からも、この小説の舞台を訪れる方がいらっしゃると思います。現場で小説のワンシーンを思い浮かべる、氏の小説の世界観に浸れることができる唯一無二の場所なのです。

この度、市ホームページで提供されている今回のプロジェクト案のパーズから猿の檻が消されていますが、その根拠のひとつが公園の地元打出小槌町で平成30年に行われたアンケートであると聞いています。750世帯の内の145世帯からの回答に留まり、しかもその内撤去に関して賛成が7割、すなわち町全体の14%弱にしかすぎません。

果たして、これを持って地元住民のコンセンサスといえるのでしょうか？つきましては芦屋市として貴重、かつ次世代に継承すべき文化財と言えるこの猿の檻についての存続をはじめとした扱いに関して、一町にとどまらず、少なくとも周辺町(春日、打出町等)に対象範

困を広げていただき民意を問うアンケートを公園管理者である芦屋市に実施していただくことを切にお願いいたします。その上で、その結果を踏まえ檻に関しての扱いを改めてご検討いただきますようお願い申し上げます次第でございます。

昨年もノーベル文学賞候補に上がった村上春樹氏の処女作の舞台を保管し後世に伝えることは広く芦屋市民の重要な責務であると考えます。
何よりも、今回のプランで猿の檻を無くすということで、未来に禍根残さないようにしなくてはなりません。

[陳情事項]

猿の檻を公園内に残し保管する選択肢を広く議論し、その前提として打出小槌町にとどまらず市民へのアンケートを実施すること。

2022年2月3日

陳情者 芦屋市朝日ヶ丘町 [REDACTED]
松尾 泰文 [REDACTED]
携帯 [REDACTED]